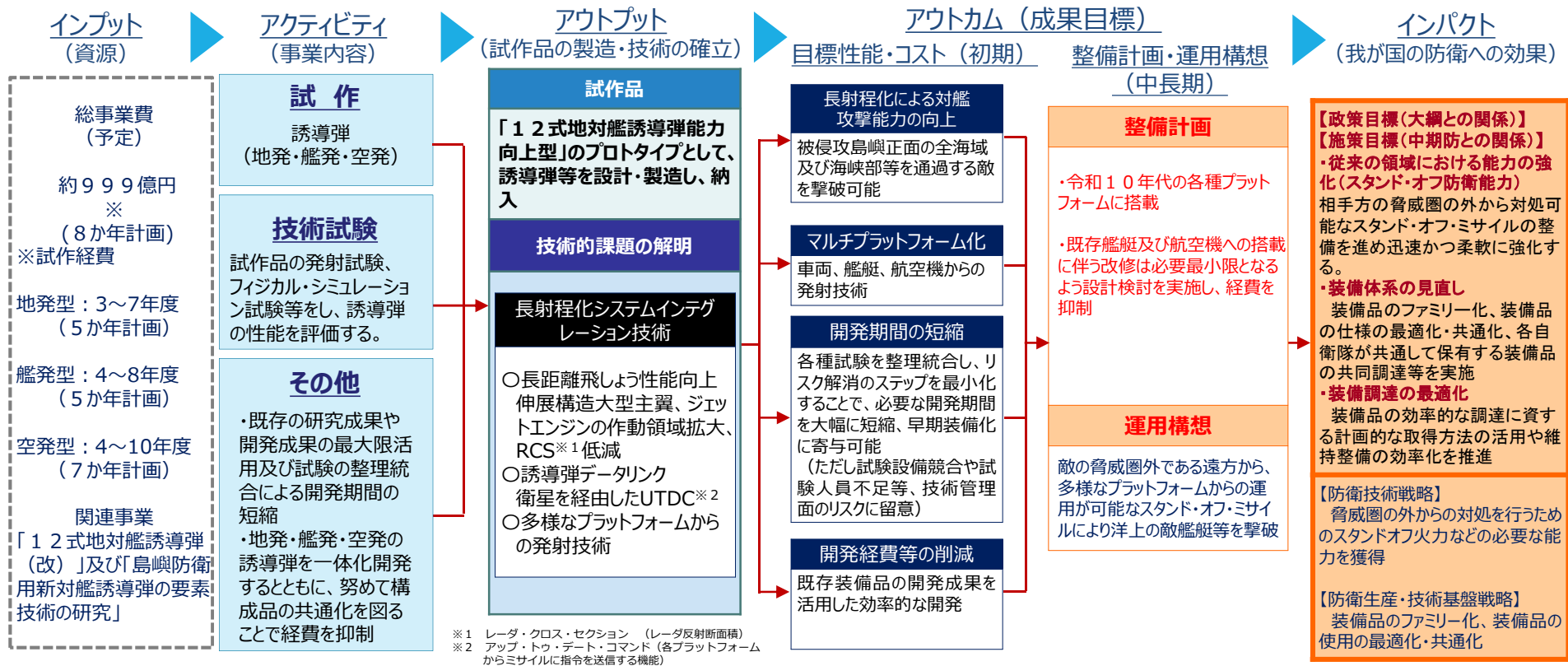


1 2 式地对艦誘導弾能力向上型（地発型・艦発型・空発型）

着上陸侵攻事態（本土及び島嶼）に際して、侵攻する相手の脅威圏外である遠方から火力を発揮して、洋上の敵艦船等を撃破するとともに、我が守備部隊などを掩護するために使用する、多様なプラットフォームからの運用が可能なスタンド・オフ・ミサイルとして1 2 式地对艦誘導弾能力向上型（地発型・艦発型・空発型）を開発する。

現状・課題

敵は、着上陸侵攻対処能力を增強し、防空能力を向上した複数艦艇により着上陸侵攻するとともに、わが島嶼部正面の海域において、継続的に海上輸送を実施して侵攻能力を維持・増進する。これに対し、我が協同対艦攻撃を実施して敵部隊の着上陸を阻止し、島嶼占領の既成事実化を阻止する必要があるが、現有装備は敵の脅威圏外から火力発揮するために必要な射程が不足している。



＜研究開発実施線表＞

年度	3	4	5	6	7	8	9	10
実施内容	← 試作 (地発型) →							
	← 試作 (艦発型) →							
	← 試作 (空発型) →							
	← 技術試験 / 実用試験 →							

総合評価

各国の早期警戒管制能力や各種ミサイルの性能が著しく向上している中、本事業を実施することにより、侵攻してくる敵艦艇等の撃破や我が守備部隊等の援護のため、より遠方から隊員の安全を確保しつつ火力を発揮でき、我が国のスタンド・オフ防衛能力の向上に寄与することとなるため、必要性が認められる。

また、多様なプラットフォームからの運用を前提とし、努めて早期の装備化が求められている本事業において、開発経費の抑制及び開発期間の短縮のため、地発型・艦発型・空発型の一体化開発及び既存の研究開発成果を最大限活用する計画としていることは妥当であると判断する。